



おがわ たかお
小川 貴夫
自由民主党田原市議団



公共ライドシェアの導入に向けた取り組みは

2団体と実施方法について検討している

交通空白の解消について

問 ぐるりんミニバス中山線デマンド運行実証実験の乗車状況は。

答 4カ月の利用者数は1,130人で、実証実験前の利用者と比較すると約10%減少している。

問 定時定路線運行より利用されなかった結果をどのように捉えているか。

答 予約方法が分からない方や、電話をかけるのが手間になった方がいたのではないかと推定している。そのため、予約方法やデマンド運行のメリット等について、さらなる周知を図る必要がある。

問 高齢者や小中学生等に乗車体験や乗り方教室などの機会は提供できないか。

答 関係校区と相談しながら検討していきたい。

問 利用者確保のために実施した施策は。

答 午後の運行について、予約の受付期限を乗車の2時間前までに変更している。また、自宅近くで乗降したいというニーズに応えるため、自宅周辺へのバス停新設希望の募集を開始している。

問 コミュニティバスのフリー乗降の考えは。

答 定時定路線において、安全が確保された一部の道路沿いでの降車のフリー化は今後検討していきたい。

問 コミュニティバスの高齢者の運賃を100円にできないか。

答 運賃の改定については、田原市地域公共交通会議にて検討する予定である。

問 公共ライドシェアの導入に向けた取り組みは。

答 夜間の足の確保を目的とする渥美飲食店組合と、伊良湖地域の観光需要に応えることを目的とする田原市農泊推進協議会の2団体における公共ライドシェア導入に向けて、田原市地域公共交通会議に分科会を設置して、具体的な実施方法について、団体と一緒に検討している。

問 公共ライドシェアの赤字を市が補助する考えは。

答 今後実施予定の公共ライドシェア導入実証実験を踏まえ、支援の必要性やその内容を判断していく。



問 複合施設の供用開始まで数年あるため、施設の補修や応急処置では対応できない場合、施設の使用停止や機能移転が行われる可能性も考えられるが、市民への情報提供についてどのように考えているのか。

答 ホームページや広報紙への掲載、公式LINE、報道発表、回覧等により広く周知を図るとともに、利用団体へは個別に連絡を取り、影響の範囲や緊急性を踏まえて、適切な情報提供に努めていく。